



菅野兵庫さん(中2)

「チームが一体となるよう声のかけ合いを意識しています。将来はアメフトをもっと人気のスポーツにできるような選手になりたい」とパンタムクラスキャプテンの菅野さん



竹原太一さん(小6)

昨年日本一を勝ち取ったビーウィークラスのキャプテン、竹原さん。「4月から中学生。今年の目標は1年生からレギュラーに入ることです」と話す



倉田蓮都さん(小4・左)
岸田直樹さん(小4・右)

「城阪コーチは優しく、気持ちをわかってくれたコーチです」(倉田さん)。「下級生の面倒を見て、上級生には教えてもらって強くなれるところが楽しい」(岸田さん)



「第30回少年フットボール日本一決定戦」(通称:「チェスナットボール」)で優勝した同チームの「ビーウィークラス」

取材協力
池田ワイルドボアーズ

小学生・中学生
選手募集中

【基本練習日】毎週日曜日
【練習場所】空港緑地グラウンド(池田市空港2丁目内)
【HP】<http://www.ikedawildboars.jp>
見学希望はHPのメールフォームから問い合わせを

「サッカーチームの頃、選手がいなくなってしまったんです。そう話すのは結成当初からチーム運営に携わる尾崎敏さん。休止期間中も審判として「チェスナットボール」に関わるなど、復活までの火種をつないだ。2005年、OBの後押しでようやくチームが復活し、城

あらゆる体格や能力を
強みに活かせるスポーツ

したルールを設けている。とはいえ、防具を身に着け十分に注意していても、多少の怪我はつきもののスポーツだ。「だからこそ多数のコーチが見守り、時には厳しく指導します」と語るのは、同チーム代表の城阪千太郎さん。ヘッドコーチでもある城阪さんのほか、コーチ17名、アシスタントコーチ7名が指導にあたる。高校や大学、社会人リーグで活躍した元選手がほとんどだ。

今年で結成30年を迎え、約80名が練習に励む同チーム。現在の活気からは想像しにくいのが、かつて休止した時代もあったという。



◀基礎から専門的な内容まで密度の高い練習ができる。保護者の応援も欠かせない

▶「IFAF アメリカンフットボール世界選手権」のU-19日本代表として選抜されたOBとトレーニングする「ジュニアビーウィークラス(小学校1~3年生)」の子どもたち



休止時代は苦しい思い出。安定した活動の継続は大切なミッションだ。必要なのはチームに愛着のあるOBをコーチに迎え、チームを運営できる人間を育てることだという。

子どもから大人へ
チームを未来につなげる

カンフットボールに熱中した城阪さんの実感がこもる。華々しいタッチダウンを決めて注目を浴びるポジションもあれば、徹底して守備にまわり、ルール上点を入れられないポジションもある。僕が道をこじ開けるから君は走って、そんな献身の精神が求められる。それぞれが果たす役割の重みは変わらない。フィールドの11人が1つの目標に向かう大切さを、城阪さんは常に子どもたちに伝えていているという。「社会に出てからもそう。1人じゃ何もできない、チームだからできるということを知ってほしい」。



巻頭特集 みんなでつなげ！勝利のタッチダウン
池田ワイルドボアーズ

高校アメリカンフットボール発祥の地として知られる池田市。地元には結成30年を迎える少年アメリカンフットボールチームがあり、チームで戦う大切さを学んでいる。ある日の練習会を取材した。



経験豊富なコーチのもとで
練習に打ち込む子どもたち

日曜日の朝、「空港緑地グラウンド」。「池田ワイルドボアーズ」(以下、同チーム)が赤いユニフォームをまとって現れた。グラウンドを駆けめぐる彼らは寒風をものともせず、中には半袖姿の選手もいる。全国の少年アメリカンフットボールチームが競い合う秋の「チェスナットボール」に向け、今シーズンの練習が本格的に始まるのだ。学年で分けられた3クラスのうち、「ビーウィークラス(小学校4~6年生)」は昨年、日本一に輝いた。身体と身体が激しくぶつかり合うイメージのあるアメリカンフットボール。小・中学生リーグではタックル(ボールを持った相手に飛びかかる行為)を禁止するなど、成長途中の子どもたちに配慮



池田ワイルドボアーズ代表 城阪千太郎さん
「タックルの習得は高校以降でも間に合う。それよりも、チームでひとつの目標に向かうアメフトの精神を知ってほしい」

れるOBの中には、大学の「甲子園ボウル」出場者や、日本代表として世界を舞台に戦う選手もいる。子どもたちにとって、5年後、10年後を思い描ける身近な先輩だ。大学在学中、子どもたちへのコーチングを学ぶためアメリカに渡った選手もいるという。彼らの中から次の世代、次の次の世代を担う人材が現れると、城阪さんは期待している。「子どもたちに身体を動かす楽しさや、仲間と日本一を目指す喜びを知ってもらいたい」。結成時から変わらぬ目標に向かって、大人たちのチームワークもまた引き継がれていく。